



(京都東南部)

滋賀・東光寺遺跡

とうこうじ

- 1 所在地 滋賀県大津市大萱二丁目
- 2 調査期間 一九八三年(昭58)一月～八月
- 3 発掘機関 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 岡本武憲
- 5 遺跡の種類 寺院跡・官衙跡
- 6 遺跡の年代 白鳳～平安時代中期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
東光寺遺跡は、琵琶湖より流れ出る瀬田川の左岸、近江国府の北
辺に近接して位置する。遺跡の中心部と考えられる大萱の集落は、
近江国府域と同様に正方位
の地割が現存しており、今
回のマンション建設に先立
つ発掘調査は、その南端の
丘陵裾部の低湿地を対象に
行った。
調査の結果、上下二時期
の遺構、遺物を検出した。
そのうち、上層からは、一

一世紀後半の掘立柱建物二棟とそれを画するように人工溝が検出された。建物は八間(以上)×六間の総柱の南北棟と、四間×三間の総柱の東西棟である。呪符木簡が出土したのは前者の建物の北東隅に位置する柱穴からで、二段掘りになった柱穴の下部に直立して(1)が、その上部に二つ折れになって(2)が出土した。柱穴は直径四〇cm、深さ四七cmである。また、この建物の東面には雨落溝が設けられており、呪符の出土した柱穴に近い溝内より桃の果核が二〇数個まともに出土している。他に、柱穴や溝を中心に、多数の土師器、黒色土器、木器(木簡状木製品を含む)などが出土した。
なお、下層からも、多数の遺物とともに木簡状木製品が出土したが、未整理のため、発表できなかった。

8 木簡の积文・内容

- (1) 「^(皇額)俱波伯鬼急々如律令」
330×37×6
- (2) 「天足^{鬼カ}」
265×28×5

呪符木簡(1)は下端部が腐食のため変色しており、一時期、土中にさし立てられていたものと思われる。(2)は二つ折れになっており、下端も欠損している。

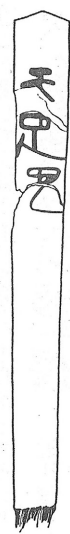
9 関係文献

滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会『大津市 東光寺遺

(岡本武憲)



(1)



(2)